

企画展 「昔の暮らしと道具」

# あいさつ

今回、六ヶ所村立郷土館に収蔵されている「昔の道具」を中心に「六ヶ所村の人々の暮らしの変化」が見えるよう展示し、広く六ヶ所村民の皆様をはじめ、村外の方々にもご紹介できることを、うれしく思っております。ここ六ヶ所村立郷土館には、大正から昭和40年代にかけての「昔の生活の道具」だけでなく「農具」や「漁具」が収蔵されています。重要有形民俗文化財に指定されている「泊の丸木舟」をはじめ、磯漁やイカ釣り漁業の道具。炭焼きや青森ヒバの「杙」を作っていた、木挽き鋸などの山仕事の道具。畑作や米作りの道具、戦後の開拓で使われた道具など、六ヶ所村ならではの「昔の生活道具」が、たくさんみられます。

今回、50年前、100年前の六ヶ所村の暮らしの移り変わりが見えるよう、また、手に取り実際に体験できるような道具を中心に展示しました。特に今回は、昔の自然素材を利用したおもちゃから、現在に至るまでのおもちゃも取り上げてみました。当時の人々が、どのような思いで、ここ六ヶ所村で生活していたのかを、「触って、体感して、感じ取って」いただきたいと思います。

最後に、この企画展をとおして、六ヶ所村の魅力を再度、発掘・発見・発信につながることを願っております。

六ヶ所村立郷土館指定管理者

一般財団法人六ヶ所村文化振興公社

六ヶ所村立郷土館長 鈴木 浩